

「隅田川駅鉄道貨物輸送力増強事業」竣工について

平成25年2月13日

当事業の対象である隅田川駅は、鉄道コンテナ輸送における東京と北海道・東北方面を結ぶ玄関口の役割を果たしており、モーダルシフトへの期待が高まるなか、その使命はますます重要性を増しております。

このたび、国からの助成を受けて平成21年度より着手しておりました「隅田川駅鉄道貨物輸送力増強事業」が竣工する運びとなりましたので、お知らせいたします。

1. 事業概要

- (1)工事内容 隅田川駅構内の着発線、荷役線の延伸、コンテナホームの拡幅・延伸、機関車留置機能の整備
- (2)工事期間 平成21年11月から平成25年3月末まで
- (3)供用開始 平成25年3月16日（ダイヤ改正）より
- (4)事業費 約46億円（国からの補助30%以内）
- (5)事業主体 京葉臨海鉄道株式会社（第3セクター）
（出資比率）JR貨物33.9%、千葉県31.3%、荷主等34.8%

2. 事業竣工の効果

- (1)着発線、荷役線の延伸
国鉄時代に作られた青函連絡船航送の編成両数（18両）に対応した配線（着発線、荷役線）を、現在の標準の編成両数（20両）に対応した長さとし、輸送力の増強をはかります。
※ 鉄道コンテナ増強輸送力 約22万トン／年
- (2)コンテナホームの拡幅・延伸
近年取扱量が増加している大型コンテナ（31フィート、20フィートISOタイプ）の取扱列車を拡大します。
- (3)機関車留置機能の整備
従来は、隅田川駅発着列車の機関車は田端信号場駅まで回送が必要でしたが、同駅構内に機関車留置設備を新設することで、輸送障害時においても柔軟な機関車運用を行うことが可能となります。
- (4)モーダルシフトによる環境負荷の改善効果
※ CO2削減量 約3.3万トン／年